

海外安全対策情報

1 治安・社会情勢

当地の治安情勢については、麻薬、石油窃盗、人身売買等の組織犯罪が多発しており、また、組織間の抗争による殺人事件が連日のように発生している。同時に一般犯罪の発生件数も非常に高い数値で推移しており、治安は悪化傾向にあると認められる。

殺人事件については、邦人を直接の標的としたものではないものの、当地における犯罪には銃器が使用されることが多く、また、スリや置き引き、車上狙い等の窃盗事件をはじめとした各種犯罪被害に遭うリスクは非常に高いと言え、当地においてはその行動に十分な注意を要する。

メキシコ内務省(SEGOB)の統計によると、2018年の殺人件数は29,990件であり、過去最高と言われた2017年の25,776件を大きく超えた。さらに、2019年1月から9月までの間の総犯罪件数及び殺人件数は前年の同期間の数値を超えて推移している。

また、政府等に対する抗議集会やデモは頻繁に行われ時に暴徒化しており、一部地域では幹線道路が封鎖されたり、道路が不法占拠されるなどの騒擾も起きている。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 全国犯罪傾向

メキシコ内務省が発表した本年第3四半期(2019年7月～9月)の犯罪発生件数報告によれば、総犯罪発生件数は516,678件と、第2四半期(2019年4月～6月)の517,419件と比較し若干減少している。犯罪種別の内訳は以下のとおり。

ア 窃盗	117,116件	(前期比 0.7%増)
イ 殺人	7,704件	(前期比 1.6%増)
ウ 強盗	68,618件	(前期比 1.6%減)
エ 性犯罪	13,082件	(前期比 3.5%減)
オ 誘拐	319件	(前期比 9.2%増)

(2) メキシコ市犯罪傾向

メキシコ市においては、本年第3四半期(7～9月)の総犯罪発生件数は60,617件と、第2四半期(4～6月)の61,237件と比較して若干減少している。犯罪種別の内訳は以下のとおり。

ア 窃盗	17,474件	(前期比 4.1%減)
イ 殺人	326件	(前期比 19.3%減)
ウ 強盗	8,640件	(前期比 10.1%減)
エ 性犯罪	1,631件	(前期比 0.5%増)
オ 誘拐	54件	(前期比 68.7%増)

3 日本企業の安全に関わる諸問題

- (1) メキシコ国内全体における邦人被害報告件数は2015年の85件から2016年133件、2017年164件と増加傾向であったが、2018年は、126件に減少した。

2019年1月～9月までの邦人被害件数は73件であり、前年同期間の被害件数104件と比較すると31件少なく、被害は減少している。しかし、73件の被害のうち17件は強盗被害で全体の約四分の一を占めており、予断を許さない状況である。

- (2) 強盗、窃盗等の一般犯罪被害は、メキシコ市を含め昼夜を問わず発生している。地下鉄、マイクロバス（ペセロ等の扉のついていない乗り合いバス）等の公共交通機関でも強窃盗が多発しており、流しのタクシー（リブレ）の運転手や、運転手と結託した共犯者らによる強盗事件も発生していることから、それら交通機関の利用は避けるべきである。その他、比較的安全とされている携帯電話機を使用した配車アプリで手配した車両であっても、過去に運転手による強盗事件等が報道されていることから、その利用には十分注意し、乗車前に運転手の氏名・車両番号を確実に確認する必要がある。

当地における強盗事件の殆どにけん銃や刃物等の凶器が用いられており、犯人の要求を拒否し抵抗するなどした場合、殺傷される危険性が極めて高い。強盗事件等に遭遇した場合は、抵抗する・大声をあげる・逃げる等犯人を刺激するような行動はくれぐれも避ける必要がある。また、これらの強盗被害は時間帯を問わずに発生しており、屋外における行動については常に細心の注意を要する。

車上狙いの被害も多く、たとえ短時間の駐車であっても車内に荷物を置くことのないようにすべきであり、置き引きやスリについても、犯人は様々な方法で被害者の隙をついて犯行に及ぶことから、所持品は常に肌身離さず監視下に置くようにする必要がある。

- (3) 邦人被害の中で注意を要するものとして、昨年から引き続き発生している外国人旅行者を装う詐欺被害がある。その手口は、観光客に対して英語で、「カバンを置き忘れてしまい所持金がないので帰国のためのお金を貸して欲しい。お金は妻があなたの口座にすぐに振り込む。」等言葉巧みに話しかけ、被害者の善意を利用して現金を騙し取るというものである。7月～9月の間にも2件発生している。

銀行員を装って被害者に電話を掛け、インターネットで購入した物の口座引き落としの請求があるが身に覚えがあるか等申し向け、さらにいずれかの方法で入手した被害者の口座番号を語る等して被害者を信頼させ、暗証番号を聞き出して口座から預金を引き出すという手口もあり、犯人は、「口座処理のために一定時間インターネット手続きが不能になる。」と言ったり、電話を切る際に銀行の注意事項に関するアナウンスを流して被害者に聞かせたりもしている。

また、ATMにおいて現金を引き出した直後に、「カードが使えない」、「ATMが壊れている」等声を掛けてカードを手渡すように要求し、ついカードを渡してしまうとカードをすり替えられ、すり替えに気付いたときにはすでに現金を引き出されている等の被害もある。

この他に、企業に対して本社の社長を名乗る者から電話が掛かってきて、「社長自らの極秘案件があり、手付金を振り込んで欲しい。日本は送金時間が過ぎている。」等言い、指定の口座に振

り込ませようとする詐欺未遂事件が複数報告されている。

見知らぬ人に話しかけられたり、身に覚えのない内容の電話を受けた際には安易に相手を信用してはならない。

- (4) 犯罪組織による殺人等凶悪犯罪の被害者は、大半が敵対する組織や治安当局であり、日本企業や在留邦人が直接の攻撃対象とされているわけではない。しかし、犯罪組織の対立抗争が激化した地域では、それに伴い治安が著しく悪化する場合もあり、繁華街や観光地等において抗争が発生した場合には、邦人が巻き込まれる可能性も否定できない。

実際にメキシコ市内の比較的治安が良いとされている地域や大規模商業施設においても散発的に発砲事件や殺人事件が発生している。

- (5) 誘拐事件については引き続き注意が必要である。出勤・退勤の時間やルート、飲食や買い物等の立ち寄り先を含めた外出時の行動のパターン化を避ける他、個人情報への厳重な管理を行い、滞在先ホテルや住居の選定についてはセキュリティーレベルを十分に考慮し、夜間の一人での外出を避ける等の対策が求められる。

特に夜間の移動については、例え高速道路を使用したとしても高い危険性が伴うことから避けるべきである。また、山間部で速度が落ちる箇所や、休憩所での一時停車中なども狙われやすいことから十分に注意する必要がある。

また、被害者を、けん銃等凶器を使用して脅迫・拉致し、短時間のうちに所持品を奪い、または複数のATMで現金を引き出させて強取するという手口の特急誘拐も発生している。車の乗降時や停車時に狙われる可能性があることから、常に周囲の状況を確認して不審者の発見に努め、被害を未然に予防することが肝要である。

さらに、実際には誘拐していないにもかかわらず誘拐したと装い、電話やSNS等の手段で相手を脅して現金を支払わせるという手口のバーチャル誘拐もある。見知らぬ不審な電話には出ない、電話に出ても知らない相手であった場合は会話を継続せずに切る等対処する必要がある。

4 邦人被害の犯罪発生状況

邦人被害一覧参照